

コミュニティバス改善案説明会（更木地区）

2011年1月13日 13:30~ 更木地区交流センター

北上市企画部政策企画課より、あいさつと今まで行ってきた話し合いの経緯の説明があり、その後コミュニティバス改善案説明会が開催されました。

前回までの経緯

21年度は中部病院につなぐということでルートを変えた。

その運行を一年間やってみた結果、運賃収入を除いた運行経費70%以上補助金で賄われた。

ほとんどが補助金で運行されている状況。現状では、今の規模を維持していくのは厳しい。

今年度、去年の4月から乗降調査をしたり、地域への説明をしたりして今日にいたっている。

5月の時点でコミュニティバスが走っている5地区に現状説明をし、11月にこれからどういう風にするか意見交換をし、そこでの案をふまえて修正した物を持ってきた。

方針

11月に実施した地域説明会でのご意見及びその後の協議をふまえた方針は次の通り

- ・ルートは説明化のとおり（更木地区は個別に協議した結果）
 - ・運賃は各地区の意見をふまえて「市街地ゾーン内利用の場合のみ150円」とする。
- 他は現行とおり
- ・下村発第1便是北上北中学校通学対応を考えて、「大門～川端」フリー区間にて時間調整することとする
 - ・祝祭日については原則運休（平成23年

度は1週間のうち2日間運休となる週はないが、平成24年度以降両日運休の場合は木、金運行とする。

確認事項

- ・今後は定期的に各地区において利用促進を市との協働により実施し、収支率50%を目指す事とする
- ・1年半継続して、収支率が一定基準に満たない場合には抜本的に運行のあり方を見直す
- ・運行の見直しには、路線、ダイヤの再検討、料金の値上げ、地域主体の需要に見合った規模の支線交通への切り替えを含む

運行ルートについて

今回は築館の方に行かなくなってしまう案になっている。

乗降調査の結果利用目的が通院や買い物が8割以上で、日常生活にコミュニティバスはかかせないので、全体の運行経費の5割まで補助金を出し、コミュニティバスを成り立たせていこうという考えになっている。

使い勝手が悪くなってしまうことがあるが、その分運行本数を減らさず利便性を高くして成り立たせていきたい。

運賃の変更により、街に近い方が値段が上がるのが不服という意見もあった。運賃については事業者からの見直しもあるので、2月に最終報告をする。

また、現時点ではバスを回す場所が確保できないため、ルートを伸ばすことはできない。

運行時間について

一日 4 往復は今まで通り。

病院に行くついでに、買物などを午前中に終わらせたいというニーズが多かったため、時間帯を前倒しにした。

運行概要

今回の案は、飯豊の方には行かず中部病院まで。中部病院より先の利用はほぼない。

更木は 1 日の目標延人数に達するまでに必要な増加人数が 13 人とあり、他の地区に比べて厳しい状況である。

祝日は平日の 3 割ほどしか乗車していないが、週 1 本は必ずバスが走っている。利用人数が限られていくと、車両が小さくなったり、相乗りタクシーのように予約制になることも考えられる。更木は唯一のスクール利用があるだけに、足がなくなることはないよう、利便性を享受していきたい。

意見交換

直接中部病院へは行けないのか

乗客人数のおよそ 3 % しか利用していない。またコミュニティバスのターゲットにそぐわない。ターゲットを特定できたのなら、福祉有償運送などを考えなければならない。

病院へ行って、昼食を取り、買物をするとなると 16 時くらいの時間帯も欲しい。最後のダイヤの利用者が少なかったため、前倒しになった。意見が多ければ今後検討する。今後の利用状況を踏まえ、次の見直しの際は生かして行きたい。

乗車場が分からず人がいる

検討する

口内のような方式はどうか

口内はタクシーもない過疎地区。タクシー・バスなどの関係者との協議もあり、全て自分たちで行うことは大変だ。コミュニティバスがなくなってしまってから、自治的な交通システムを構築していくのは難しい。使おうが使わまいが、地域全体としての交通システムが大切。

市で使う業者は変えられないのか

現在は岩手県交通と県北自動車の二つの事業者があり、ここ以外とすると全ての交通がなくなってしまう。トータルで考えて欲しい。

本業を圧迫しなければ、タクシーは融通が利くようになり、協議に応じるようになった。

